

1 沿革

平成23年	6月1日	磯部小学校、磯部中学校、中村第二小学校、中村第二中学校へ定期的なスクールカウンセラー派遣
平成23年	6月2日	特定非営利活動法人相馬フォロアーチーム設立 理事7名、監事1名、事務局長1名、スタッフ6名 理事長に山田耕一郎、副理事長に志邨有紀枝が就任
平成23年	9月1日	日立木小学校へスクールカウンセラー派遣
平成23年	11月1日	玉野小学校へスクールカウンセラー派遣
平成24年	4月1日	理事長に羽根田万通、事務局長に渋谷常範が就任 アート・メゾン予定地に仮設事務所を設置し、生涯学習会館より移転 山上小学校へスクールカウンセラー派遣
平成25年	4月1日	事務局長に齋藤順至が就任
平成25年	12月2日	事務所をLVMH子どもアート・メゾンに移転
平成26年	4月1日	カウンセラー3名・保健師1名から、カウンセラー4名体制 世界の医療団からカウンセラーの支援派遣
平成26年	7月2日	LVMH子どもアート・メゾンが正式にオープンし、相談室での相談を開始
平成27年	4月1日	カウンセラー3名体制
平成28年	4月1日	事務局長に堀川幸一が就任

2 設置の趣旨

相馬市内の子ども、保護者、教員に対して、震災により生じた心理的ショックを緩和するための心理的なケアを行い、市民の心の健康の維持に寄与するとともに、子どもたちの生きる力を育むことを目的とする。

3 活動方針

○ 子どもの「自分らしさ」と「たくましさ」を育て、未来の可能性を広げる。

- 心理支援を行うことにより、子どもの不安や悩み、PTSD様反応などの解消を目指すとともに、自尊感情や自己肯定感を高めるような働きかけを行う。
- 学校・家庭・地域への支援を行うことで、子どもの生活の質を向上させる。
- 子どもたちが人々と温かいつながりを持つことができるように支援し、個々に持っている「困難をはね返す力」を再発見できるように促していく。
- 子どもが生活していく上で必要となる「生きる力」を身につけるられるような働きかけを行う。

4 組織

(1) 理事会

理事長	羽根田 万通(会社役員)	副理事長	長 有紀枝(難民を助ける会理事長)
理事	上 昌広(NPO法人医療ガバナンス研究所理事長) 宮澤 保夫(星槎グループ会長) 近藤 菜々子(弁護士) 佐藤 達雄(税理士) 片寄 雅彦(医師)		
監事	反畑 正博	事務局長	堀川 幸一

(2) スタッフ

担当	職名	氏名		
心理支援	カウンセラー	秋山 響子 城戸 有未 野口 雅正		
事務局	事務局長	堀川 幸一	事務員	齋藤 玲子

5 事業の概要

(1) 学校巡回型心理支援

① スクールカウンセリング

- 児童生徒や保護者へのカウンセリング活動
- 震災遺児への継続的・多面的な見守り活動及びカウンセリング
- 教員が児童・生徒の問題を効果的に解決できるような援助

学 校	担 当	曜 日
磯部小学校	秋山 響子	水
磯部中学校	城戸 有未	木
中村第二小学校	城戸 有未、野口 雅正、東 美穂(世界の医療団)	月・火・水
中村第二中学校	秋山 響子、野口 雅正	火・木

② 教職員への支援

- 教員研修の実施と講師派遣

③ 緊急支援

- 児童・生徒等に関わる事件や事故が発生した際に、上記以外の学校にも短期、集中的にカウンセラーの派遣

(2) 拠点型心理支援

① LVMH子どもアート・メゾン相談室での活動

- 乳幼児から18歳までの子どもに関する来所相談
- 保護者の希望に応じて、幼稚園、保育所、学校、関係機関との連携

場 所	担 当	曜日・時間
アート・メゾン相談室	秋山響子、城戸有未、野口雅正	平日(9時～17時)

(3) 他機関と連携した心理支援

① 関係機関や組織、教育機関との連携・協働

- ② 子育て支援(保健センターや自立支援協議会巡回相談へのスタッフ派遣等)

理事長あいさつ

平成26年に安野光雅さんが執筆された「皇后美智子さまのうた」という本の中に「手紙」というお題があります。平成23年の大津波で両親と妹をさらわれた4歳の少女が、母親に宛てた手紙を書きながら、その上にうつぶして寝ている写真をご覧になったときの御歌です。



「生きてるといいねママお元気ですか」^{ふみ うなかぶ}文に項傾し幼な児眠る

私は、この御歌に接して、何となく震災直後の子ども達の死にぶち当たったときの悲しみに、そして、自分の心に少し距離ができていくことに気づきました。家族を失った子どもや家族の心のケア、そして教え子を失った教師の心のケアなど、この6年間、相馬フォロアーチームは重責を果たして参りました。それは、今でも重大な問題ですが、それに加えて最近新しい課題が増えてきております。それは、震災による家族の死、居住地域の消滅、原発問題による避難命令などで家族が離散して離婚が増え、片親家庭が高校で3割を超えている状況にあります。親は働かねばなりませんから、子どもは家庭で一人で過ごす時間が大幅に増え、1日に10時間以上ゲームやスマホ依存で過ごすという話をよく耳にします。相馬フォロアーチームは今後、この問題にも積極的に取り組んでいかなければならないと考えています。

今後も皆さまのあたたかいご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成29年5月

NPO法人相馬フォロアーチーム理事長 羽根田万通



平成29年度 要覧



特定非営利活動法人

相馬フォロアーチーム

〒976-0042 福島県相馬市中村2-2-15 LVMH子どもアート・メゾン

電話 0244-35-6200 FAX 0244-35-6215

URL <http://www.soma-ft.org/> E-mail sft@soma-ft.org